



あいさつと温かい言葉の大切さ

校長 北野 美紀

1月の全校集会で、全校児童に「校長先生は、毎朝笑顔で“おはよう”とあいさつしてみんなを迎えることを、今年の目標の1つとします。」と伝えました。それから1ヶ月。元気にあいさつをしてくれる子がたくさんいるのですが、すーっと通り過ぎていく子も。そのような様子を見かけたときは、体調が悪いのかな？ 朝、家で何かあったのかな？ と心配になり、その時々に応じて声をかけています。

あいさつをする人は、幸福度が高いという研究結果があります。また、自ら進んで交わす「おはようございます」や「ありがとう」は、人と人との繋がりを作り深めます。言葉は「言霊」と言われ、その人の気持ちを伝えます。温かい心を伝える温かい言葉を、子ども達が自然に使えるように、言葉の環境をより良いものしていきたいですね。（言葉の環境の多くは、周りの大人が使っている言葉によってつくられています。）

先日、教育委員会の主催による、保護者向けの性教育講演会が開催されました。講師は、本校全児童対象とした性教育でもお世話になりました高野しのぶ先生です。お話しの冒頭で、「性教育とは、ありのままの自分で、幸せに生きるためのスキルを学ぶことである。自分の意志で決めていく、支配されずに自分がどうしたいのか決められる状態がとても大切である。」とおっしゃっていました。また、「親は、色々な選択肢を提案はしてもいいが、最終的に決めるのは子どもであり、“あなたのため” “どうしなさい、あしなさい” という言葉ではなく、“子どもが何をしたいか” が大切であり、いっぱい失敗させ、沢山考えさせ、失敗したらやり直しを重ね、自分で考え解決させることが大切だ。」ともおっしゃっていました。とにかく大人である私たちは、よかれと思い先回りして、大人の物差しや経験値を子どもに語り、失敗させないようにしがちですが、子どもの人生は子ども自身のものであるという認識を大人が持つことは、とても大切なことですね。心理学では、安心して気持ちを話せる存在を「安全基地」と呼び、児童精神医学者のジョン・ボウルビイは、「信頼できる大人がいることで、子どもは安心して挑戦し、困った時にはまた戻ってこられる」と言っています。

今年度もあと残すところ2ヶ月。1年のしめくくりに向けた活動、来年度を見据えた活動も始まってきます。友だち関係も、新年度に向け心配になる子もいるかもしれません。友だちという存在は、心の拠り所となる大切なものですが、いつも無条件で安心できる関係とは限りませんし、実際には、子ども達の間にも利害や気遣いが生まれるものです。だからこそ、大人は、子ども達の心の土台になり、無条件に「どんなあなたでも大丈夫だよ」「挑戦や頑張りを見届けるよ」と言ってあげられる存在でありたいと思います。

是非ご家庭でも、子ども達が温かい言葉を交わし、明るい気持ちで過ごしていけるようお力添えのほど、どうぞよろしく申しあげます。

高城ファームの「トトロ」→
2026年バージョン

